



### 〈報告〉「大刀剣市2019」実行委員会 事前説明会を開催

今年の「大刀剣市」事前説明会が八月二十三日の組合交換会終了後、東京美術倶楽部で開催されました。

事前説明会は、十一月一日から三日間開催される今年の大刀剣市に出店する七十三店舗が、一堂に集まる唯一の機会です。大刀剣市実行委員会が、出店規約やカタログ・会場・新聞広告・カード利用など催事に関する変更点や諸注意などについて説明し、出店者からの質問にも丁寧に対応して、大刀剣市が無事に開催できるように確

### カタログ制作の現場から

「大刀剣市」図録(カタログ)編集委員会から、出店者の皆さまにお知らせとお願いです。

今回は「カタログはいつ届くのか」といった問い合わせが組合事務局へ相次いだと聞いています。これには、実行委員会の立ち上げが新執行部の確立に伴って例年より若干遅れたこと、さらに掲載内容の正確性を期し、全ての出店者に郵送し、校正をしていたことが影響しました。編集委員会はできるだけ納期を短縮しようと努力しましたが、相応の時間を要してしまいました。



より良いカタログを目指しての作業風景

認を行います。

同実行委員会としては、任命された六月以降、今年の大刀剣市をいかにして成功させるか協議を重ね、努めている状況を出店者に報告し、意見を伺う場となります。各実行委員は、ともすれば自分の商売を二の次にして、あくまでボランティアとして大刀剣市のために時間を費やしています。

恒例の一大企画を限られた条件の下で開催するために、実行委員会は経験と知識を兼ね備えたベテランを中核に据え、さらに後進が

育つように若手を随所に登用し、継続性を意識した編成としています。その結果、特定の組合員に頼る実情となつていきます。

一方で、公平性の観点からも、実行委員会を出店者全員参加型にするかや交代制、輪番制にするべきという意見があります。

しかし現実的には、地理的な問題や個々のさまざまな事情があつて、現状に代わる妙案は実現を見ていません。

事前説明会に要するのは、わずか一時間程度です。しかし、この一時間は、出店者全員が勢揃いして、大刀剣市というビッグイベントが縁の下力持ちにより支えられていることをあらためて認識

はさらに高まると思います。

次に、編集委員会からのお願い事項を記します。併せて、やや専門的になりますが、データ入稿については次のような要望も印刷現場から上がっています。

- ①刀身の本体画像が天地二〇〇ミリ時に最低解像度が三五〇dpiあるように作成してください。
- ②刀装具についても、本体が原寸時に最低解像度が三五〇dpiあるようにデータ作成願います。
- ③一カットに数点の掲載品を入れると、その後のレイアウトの作業に支障が生じたり、印刷解像度が不足する場合がありますので、一カット一点を基本としてください。

し、出席者全員が成功に向けての思いや情報を共有する場、一丸となる大事な機会です。



ほとんどの出店者が出席した事前説明会

### ある刀屋の履書

飯田慶久 (飯田高遠堂)

#### ◆第四回 徳川家の刀剣

平成九年十月、東京国立博物館で特別展「日本のかたな 鉄のわざと武のこころ」が開催された。国宝・重文・重宝などの名刀を一堂に展示する戦後最大級の展覧であった。

開会に先駆けて開かれた内覧会の席上、伊予西条松平様にお会いした。その折、松平様が「飯田さんはお近くにお住まいの徳川様を「存じかな」とおっしゃるので、「存じ上げませんが」と申し上げると、その場でご紹介いただくこととなった。本紙第47号に記したように、松平様とは九鬼正宗の一件以来親しくさせていた。飯田高遠堂の社長で、私が絶大な信頼を寄せている男なので、どうかよろしくお見知りおきを」と紹介されたのは恐縮した。

それから数カ月後、銀座松坂屋で当店が展示即売会を開催した時、会場に徳川Y様がお見えになった。お父上は昭和天皇にお仕えし、宮内庁侍従長を務められた徳川義寛様で、尾張徳川家の御分家にご所属。当日は慌ただしかったこともあり、私は初め、うかつにお持ちになった目貫や小柄五

六点を見てほしいとのこと、拝見すると、今作られたかと思えるほど保存のいいものばかりだった。「お宅様の品物はどれも保存状態がよろしいですね」と言ってお顔を見て気がついた。

私が品物を拝見している間、徳川様はずっとお立ちになっておられたのである。私は「大変失礼しました。徳川様でございますか」と謝罪し、ご説明をさせていただ

いた。その際、ご所蔵の刀剣を評価鑑定することを依頼された。

ご自宅に伺ったのは、それから数週間後だった。出してもらったのは保昌貞吉の剣と相模守政常の槍である。「どちらの方が価値が高いですか」と問われ、剣の方を挙げると、それぞれの評価についても意見を求められた。

私は剣が重要刀剣に指定されるクラスと判断し、「三百万円くらいでしょうか」と申し上げ、槍は四十〜五十万円の相場をお伝えした。「それでは、槍の方はお持ち帰りください」と言われ、頂いてきた。

帰社してからも剣のことが気になる、いろいろ調べてみた。すると『日本刀重要美術品全集』に掲載されているではないか。私はすぐに電話をし、「先ほどは大変失礼しました。保昌貞吉の剣は重美に認定されており、一千万円以上する名品です」とご説明した。さらに「徳川家康遺品集」にも紹介されていて、家康公ゆかりの一振であることが判明した。

徳川様は「家康にまつわる品は今の当家にはこの剣以外にはないので、家宝として大事に伝えていきます」とおっしゃられていた。

その後しばらくして、平成十六年のころ、刀を見てほしいとの依頼を受け、再び徳川様のご自宅に伺う機会があった。

拝見した太刀は優美な姿で身幅広く、重ねも厚く、ただならぬ名刀であることはすぐにわかった。しかし、残念なことに銘の部分がかちていて、「国俊」と見えるが判然としない。うかつなことは言えないと思う、「私の鑑識力では判断がつかないので、刀剣博物館で専門家に見ていただいては

がでしょうか」と申し上げた。その場で刀博の田野道宏先生に連絡すると「おいでください」とのことだったので、早速、徳川様とともに太刀を持参した。

田野道宏先生の鑑定は「二字国俊の重文級の名刀」とのこと、徳川様も大いに喜ばれた。それから数年後、この太刀は縁あって私が扱わせていただいた。ほかにも一文字の太刀など数点をお譲りいただいたが、いずれも古鞘に蔵番のある尾張徳川家伝来の刀だった。

その後、あるパーティー会場で水戸徳川家の徳川Y様にお目にかかった。先ごろまで靖国神社の宮司を務められた方である。「飯田さんは私を知らないだろうが、私はよく知っているんですよ」とおっしゃり、「徳川Yさんからあなたのことばよく聞いているし、われわれ一族の集まりで刀の話になると必ずあなたの話題になるんだよ」と、驚くほどの話をされた。

ある時、徳川美術館の展覧会に私どもから刀をお貸ししたことがあり、学芸員の方が返却に見えられるとのことだったが、実際には館長の徳川Y様が「一緒に来た。徳川美術館は名古屋にあり、尾張徳川家が設立した公益財団法人徳川黎明会が運営している。Y様は尾張徳川家のご当主であり、実は当店から徒歩四、五分の所にお住まいなのである。」

「先日、親戚の集まりがあった時、飯田さんの話になり、叔父・叔母たちがみんな飯田さんを知っているのに、近くに住む私が知らなかったとは大変失礼した」と恐縮されておられたが、ご当主の先代も先々代も存じ上げていたのに、私の方こそご挨拶が遅れたことをお詫言した。

それもこれも、九鬼正宗から始まった縁である。そして、徳川家との縁もまた続くのである。

### NEWS & TOPICS 秋葉神社「日本刀公開講座」に七十余人が参加

浜松刀剣愛好会(御室健一郎会長)と浜松市は九月二十九日、同市天竜区春野町の秋葉山本宮秋葉神社本社で「日本刀入門公開講座」を開催した。参加者は七十八人。左野美術館の渡邊妙子理事長が講師を務め、「日本刀の美と技」

と題する講演では「鉄を磨き上げることでできる刀の光を愛でるといふ楽しみが日本人によって見いだされた」と述べられた。その後、参加者は同神社が所蔵する鎌倉から江戸時代にかけての日本刀六振を鑑賞した。

刀剣業界の情報紙である『刀剣界』では、記事を募集しています。ニュースや催事情報、イベント・レポート、ブック・レビュー、随筆・意見・感想など、何でも結構です。写真も添えてください。組合員・賛助会員以外の方も歓迎です。ただし、採否は編集委員会に諮り、紙面の関係で編集させていただくことがあります。

### 「登録証問題」を考える ②

#### 事例 31 対応の違い

銘文などの記載に間違いがなくとも、登録月日だけが異なる例がある。昭和二十六年から三十年代に交付された登録証にまあるものである。今回、越前守国次の槍の登録証の内容確認をしたところ、日付が異なるという回答を得た。この事例は少なくない。問題は、その時の対応が都道府県によってまちまちということである。東京都は「日付が異なりますが、古い登録証にはよくありますから」「コピーを添えていただければ、所有者変更届出書を受理します」という回答をすることが多い。ところが、東京都以外の教育委員会の場合、日付が異なるから受理できません、と言われることが多々ある。

兼友の平造協差は、昭和二十六年大阪府で交付されていた。内容は一致するが、日付が異なるので所有者変更届出書は受理しませんでした、と言った。これなど、東京都であれば、前述したような柔軟な対応をするはずである。が、大阪府はそうではなかった。

大阪府は以前にも同じような事例があった。昭和二十六年登録で登録月日が異なっている。もちろん、どう異なっているかは教えてくれないし、所有者変更届出も受理しない。それで東京都に資料を送ってもらって現物を審査し、また大阪に資料を送付し、ようやく訂正交付となった。実に一か月半ほどの手間暇がかかったことを本欄で紹介した。初期の登録証の日付の記載間違いについて、東京都のように柔軟な対応をすることは少ない。

確認を求められたことがあった。買取希望で持参されたその協差は、発見届から登録までを、現所持者のお父上がなさったのだという。一応、内容確認をしたところ、日付が異なるという回答。しかも現物確認が必要になるという。これは初期登録ではなかったのかも知れない。が、登録の事情はかなり明確であった。それでも現物確認を求められた。

結局、訂正交付されたが、要するに三十日を三十一日と書いてしまった、というような本当に初歩的なミスが原因と判明。そんなことのために、多大な時間がかかってしまった。訂正交付された登録証を手渡す際、職員が「すみません」の一言はなかった。

「当時の登録業務のミスであって、私のせいじゃないの?」なんて謝らなきゃいけないの? ということなのかもしれない。現物確認を担当したY先生だけは「こんな初歩的な昔の間違いのために、半日費やさせてしまって…申し訳ないです」と詫言っていた。初期の登録証の記載ミスについて、どう対応するか、許容する交付年をいつごろとするか、など、全国の都道府県教育委員会で意見交換して、対応がまちまちにならないように、悪意がないと思われれば、柔軟に対応するようにしてほしいと切に思う。

ただ、東京都の場合も、日付だけでなく、長さの測り間違いがあった場合、やはり現物確認という手続きを踏まねばならない。困ったことである。

今後、登録の際にデジタル写真資料を残しておく、初歩的なミスであれば、写真を照合することで、確認のために登録審査会に出向かなくても訂正交付できるようにしてほしいと希望している。

#### 事例 32 登録証の種類

奈良県の登録証の付された康継の協差が買い取り相談で持ち込まれた。奈良県教育委員会に電話をかけて、問い合わせたところ、長さ・反り・銘文・登録年月日、すべて大丈夫であった。ただ、一方の問題があった。この登録証は、協差とすべきところを「刀」と記載しているのである。

私「内容は合っていますね。しかしこれ、協差ではなく、刀として書かれていますね」

担当者「はい、登録台帳はそのようになっていますね。は、私「でも、これ、協差ですよ。刃長は一尺六寸六分だし、ねえ」担当者「え、さ、どうでしょう。ともあれ、台帳では刀と書いていますので」

この担当者は、刀・脇差・短刀の種別の定義がわかっていないのである。これ以上は話しても無駄だなあ、と思いつつ、受話器を置いた。奈良県の昭和二十六年、刀：何となく以前に見たような気がして調べてみると、あった! 刃長一尺なので、脇差と記されているところだが、「刀」と書かれている。同年月日で、同筆である。

同じ日に、同じ人により登録証が書かれたことは歴然である。この人は、刀・脇差・短刀、その日に登録された刀剣のあらゆる登録証の種類を「刀」と書いてしまったのだろうか。その日だけ、体調不良で間違えてしまったのだろうか。それともそういう間違いを数カ月、数年にわたって繰り返していたのだろうか。

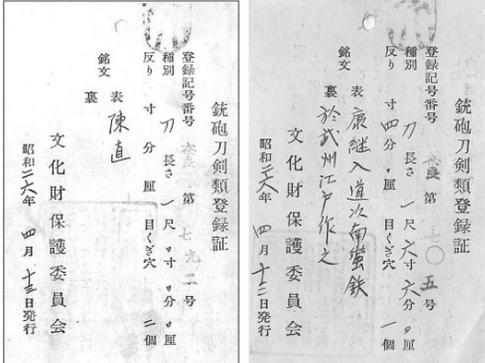
となると、今後、奈良県発行の同様の登録証にお目

にかかると可能性があるのかもしれない。困ったことである。「昔の登録証にはよく間違いがありますから」という。が、現在、奈良県で銃砲刀剣類登録の事務に関わっている人は、先に示した協差康継の登録証について、何ら疑問を持たなかった。部署の配置で、たまたま登録行政に関わるようになったのであり、刀に全く関心はないのだろう。それでも種別くらいは理解しておく必要はあるのではないだろうか。

令和元年の現在も新規に刀が登録されているはずだが、その際、脇差や短刀に対して、「刀」と記載されてしまったら、そもそも種別について理解がなければ、そのまま発行されてしまうであろう。こんな単純な間違いであっても、登録証の記載内容を正すならば、型通りの手続きを要するはずである。①現物確認依頼書を奈良県が送付。②受け取ったら、必要事項を書き込んで返送。③東京都から登録審査会の案内を受け取る。④都庁で現物確認。⑤東京都から奈良県へ報告書。⑥奈良県が訂正交付。

一連の手続きが完了するのにかかる場合によっては、一カ月から一カ月半かかるのではなからうか。何とも残念な話ではある。

(登録証問題研究会)



脇差がいずれも刀とされている

### 甲冑の話 ④

(二社)日本甲冑武具研究保存会

今回は横浜市の「馬の博物館」で十月五日(土)から十二月八日(日)まで開催されている企画展「名馬と武将」を紹介しよう。

展示品は絵巻物・文書類・馬具・甲冑を中心として、鎌倉時代から江戸時代にかけての武士たちと馬との関係性を紹介する内容となっています。甲冑は特に至町時代の後期から桃山時代の胴鏡・兜が展示されています。

小田原北条氏一門の北条氏規(北条氏康四男、一五四五〜一六〇〇年)所用との伝来がある「本小札紫糸素懸威腹巻」(小田原城天守閣蔵)をはじめ、日本甲冑武具研究保存会の会員が所蔵している甲冑・馬具(鎧や鞍)も展示されています。

兜は東国で製作されたもの(相州鉢、別称小田原鉢)が多めかと思えます。馬具についても戦国時代に製作された鞍を中心に展示されており、普段まとめて展示されることが少ないものです。

また今回の展示は、甲冑をはじめ武具類の重さに着目している点も特徴で、展示解説に重量が記載されています。当時の武装階級の



刀にも触れる... 明治日本の世界遺産を訪ねるツアー

JR九州は九州鉄道の開業百三十周年を記念し、人気のD&S列車「A列車で行こう」を使って、時開業した五駅の駅長と一緒に明治日本の世界遺産等を巡る「九州鉄道と明治日本の世界遺産を訪ねる」日帰りツアーを実施する。

九州鉄道は九州初の鉄道として明治二十二年十二月十一日に博多駅から千歳川仮停車場まで開業。今年には百三十周年に当たる。

今回のツアーは、当時開業した博多駅・南福岡駅(稚餉隈駅)・二日市駅・原田駅・鳥栖駅の駅長と一緒に、明治日本の世界遺産等を巡る特別なツアーとなる。博多駅から大牟田駅・荒尾駅まで特急「A列車で行こう」で往復するほか、その間、郷土刀の鬼塚吉国を鑑賞、チャーター船に乗って三池港を海上から特別見学、宮原坑から万田坑までの三池炭鉱専用鉄道



JR九州の「A列車で行こう」

**日本刀 販売 買取 委託**

**e-sword** (株) e-sword (イーソード) 平子誠之

〒350-1115 埼玉県川越市野田町 1-4-19 1F  
TEL 049-246-6622 FAX 049-246-1407

<http://www.e-sword.jp>

日本刀 イーソード 検索

mail: info@e-sword.jp

**「錦包藤巻太刀・腰刀」復元プロジェクト始動**

敵島神社所蔵の「錦包藤巻太刀・腰刀」(重要文化財)を復元し、奉納するプロジェクトがクラウドファンディングを活用して開始された。期限は12月28日、目標金額は250万円。

外装の錦が剥落しているだけでなく、鐔も金具も失われた状態を憂い、三上貞直刀匠が錦研究家や染織専門家・研師・鞆師・白銀師・金工・柄巻師らの協力の下に刀身と外装の復元に挑戦する。詳細と支援の申し込みは下記まで。

<https://casanell.com/projects/view/13>

人たちがどのようなものを身にまとい、あるいは使用して戦場に赴いたかをよりリアルティをもって想像させてくれるので、見学する人にとっては大変興味深い内容になっているのではないのでしょうか。

常設展では日本人と馬の関わりについてさまざまな情報を通史で知ることが出来る「馬の博物館」ならではの展示となっております。これもなかなか見る機会のないものです。この機会にぜひ足を運んでみて下さい。

馬の博物館 11-23-1-085  
3 神奈川県横浜市中区根岸台 1-3 公益財団法人馬事文化財団  
〒045-1662-1758  
<https://www.bajimusejrao.ne.jp/>

(一般社団法人日本甲冑武具研究保存会 評議員・佐々木亮)

# 刀 劍 界

## 質問箱 第三回

回答者 ● 冥賀 吉也



### 「古」極めの定義と特徴

①古伯耆極めの刀剣は平安時代後期～鎌倉時代初期と言われ、古吉井は鎌倉末期から南北朝期と言われている。同じ「古」が付くのに、なぜ時代が異なるのですか。

②古某の付いている流派等について、その特徴を詳しく教えてください。

①については、おのおのの流派などの「祖」と言われる刀工の出現の時期が異なっているためです。

②については、生ぶ無銘の太刀や大磨上げ無銘の刀を極める場合、刀工の個名で極めることが難しい時に、何時代のどの国のどの流派に属するかが判断できれば、古某で極めることが多いものです。

古い時代の刀剣には特に在銘品が少ないことも、理由の一つです。次に、古某極めのものとはたくさんありますが、代表的な極めを挙げてみると、前述の古伯耆や古千手院、古京物、古波平、古備前、古青江、古一文字と続き、古宇多、古三原、古吉井、古金剛兵衛、さらにはやや時代の下った古水田なども見られます。

それでは、おのおのについて詳しく見てみましょう。

#### ■古伯耆

古伯耆とは、伯耆国において平安時代後期から鎌倉時代初期にかけて活躍した刀工群およびその作刀を指す。安綱が最も有名で、その子と伝える大原真守、一門の有綱・貞綱・安家・真景などがある。作風については、姿は同時代共通のものであるが、身幅の割に鑄がやや高く、鑄幅が狭い。加えて

平肉のよへついた造り込みが特徴ともいえる。地鉄は板目肌立ち、地沸がつき、地斑、地景を交えて、地鉄が黒みを帯びている。

刃文は小沸出来にて、匂口がうるみ心に刃肌が立って、金筋・砂流しなどがしきりにかかり、ところどころに小互の目や小湾れが独立して交じり、加えて区際に腰刃とか焼き落しのある点が古備前とは異なる。帽子は焼き詰めか沸崩れて火焔が多い。

#### ■古京物

平安時代末期から鎌倉時代初期にかけて、京には宗近・吉家の三条派、包永・国永らの五条派、また久国・国安らの初期粟田口派の刀工たちがいた。古京物極めの太刀類は、にわかには流派・個名を指摘し得ないまでも、鎌倉初期を大きく下らぬ古い京物と鑑することができるといえる。

作風は、優美で古典的な形状に、地鉄は小板目肌よく詰み、地沸微塵に厚くつき、細かな地景入り沸映り立つ精美な肌合いとなる。刃文は直調にさまざまな小模様を乱れを交え、匂口明るく小沸のよくついた古雅な格調のあるものである。

#### ■古備前

古備前とは、平安時代末期から鎌倉時代初期にかけて備前国に出現した刀工群を言う。同派の中では友成と正恒が最も有名で、特に正恒系には在銘作が多く、恒光・利恒・包平・吉包・助包・光忠・景安・信房など多くの名工が存在した。

古備前の一般的な作風は、生ぶの姿はやや長寸にて腰反り強く踏ん張りあり、先に行つて伏し心を見せ小切先に結び、優美な太刀姿が多い。地鉄は板目に地沸つき、

地景交じり乱れ映り立つ。刃文は小乱れ・小丁子・互の目が交じり、沸つき、金筋のかかるもので、総じて華やかに乱れるものは少なく、直刃調か浅い湾れを基調とするのが通例であり、総じて古雅である。

#### ■古一文字

福岡一文字は備前国福岡庄において鎌倉時代初期から中期まで栄えた。その中で、則宗をはじめとして助宗・宗吉・成宗・宗忠・重久・貞真など鎌倉初期に活躍した刀工たちを、別に古一文字と称している。

作風は、古備前に比して丁子が目立って整い、映りが鮮明となるが、鎌倉中期の福岡一文字ほど華やかではなく、古備前同様に小沸出来のものである。

#### ■古青江

備中国は古くから鉄の産地として知られ、青江派の刀工は同国の子位や万寿の地で作刀した。青江とは在地の地名である。

『日本古刀史』によると、古青江とは平安最末期から鎌倉初期までのものを一括して言うところであるが、現在では平安末期から鎌倉中期ごろまでのものとされている。

古青江の名だたる刀工としては守次・貞次・恒次・次家・包次・為次・康次・俊次・助次・次忠などがおり、「次」を通字としている。なお、守次・貞次・恒次には名跡を襲うものが数代ある。

作風は、小板目がよく詰まって地鉄のきれいなものと、縮縮肌と言つてチリチリと肌立ち、澄肌と言つて一種の地斑があり黒みのあるものがあって、後者に特色を見る。刃文は小沸のついた直刃仕立てで、歯の中に小乱れ・小足の入るものがあり、古備前に比して地刃ともに地味で渋い感じのものである。

なお、銘は佩裏に切り、鑄目が大筋違である点も、古備前とは相違する。

#### ■古波平

平安時代後期、正国なる刀工が大和国から薩摩国谷山郡波平の地に來住して波平派の祖となったと伝え、その子を行安といひ、その流れは幕末にまで及んでいる。同派の中でも南北朝期を下らぬ刀工およびその作刀を総称し、古波平と言つ。刀工としては行安・家安・久安などが挙げられる。

波平の作風はすこぶる保守的であり、時代が下っても平安後期の太刀物の特徴を継承し、これに九州物の特徴を加味した独特の作風としている。

鑄高く、板目が総体に流れて柱がかり、地鉄はネットリとして軟らかみを帯び、鉄が白けている。刃文は細直刃調を主調にするみ心を見せ、小沸つき、総体にほつれて匂口は沈み心となる。鍔元を焼き落すと特徴があり、帽子は焼き詰め二重刃がかかる。

#### ■古宇多

宇多派は鎌倉時代末期の古入道国光を祖として、南北朝期に国房・国宗・国次らの刀工がおり、同名相次いで室町時代末期にわたり越中国で栄えている。このうち、南北朝時代を下らぬ作品を古宇多と汎称している。しかし、南北朝期の在銘品はほとんどなく、無銘極めのものが大半を占める。

同派は大和国宇陀郡の出身であることから自然、大和気質の強いものが多く見られるが、同時に越中の先達の則重や江に倣つたと見られる相州伝風のものも存在する。

古宇多極めの作風は、姿は南北朝期の延文・貞治形が多く、地鉄は板目に歪流れ肌交じり、やや肌立つ鍛えに地沸厚くつき、太い地景がしきりに入り、鉄色黒みを帯び、肌目が粕立つところがある。刃文は中直刃調に沸がよくつき、刃縁がしきりにほつれ、金筋・

砂流しが激しくかかり、粗めのつづらな沸がつき、匂口は沈み心となる。

大和伝・相州伝を加味し、加えて黒みを帯びた地鉄には北国気質も見られる作風である。

#### ■古三原

備後国三原派は鎌倉時代末期に興り、以後、室町時代末期に至るまで繁栄した。一派のうち、鎌倉時代末期から南北朝期にかけてのものを古三原と汎称しており、代表刀工として正家・正広が挙げられる。

三原の地は中央の社寺の荘園が多くあった関係で、大和気質の作風が多く見られるが、まれに段映りの現れた隣国の青江に似た作風

も見られる。古三原極めの作風は、姿の点では南北朝前期ごろのものと同文・貞治ごろのものとの二様があるが、共に鑄地の高い造り込みである。

地刃の点では大和本国のものに比べて沸の弱いのが一般的で、鍛えは白け心があり、ままだ板目の肌合いの中に歪が目立って肌立ち、刃文は直刃にて匂口が締まり心となり刃縁が盛んにほつれ、ところどころ食い違い刃を見せ、匂口は沈み心となる。帽子は穩やかとなり、直ぐに小丸にて返りが長くなるのも特徴の一つである。

#### ■古吉井

備前吉井派は鎌倉時代後期に為則を祖として始まると伝え、鎌倉

末期から室町時代にわたって繁栄した。同派のうち、南北朝期までの作を特に古吉井と称し、室町期からは単に吉井と呼んで区別している。古吉井の代表刀工として景則・真則・則繩・盛則らがいる。

吉井派の作風は、互の目が規則的に連れるところが見どころであり、また映りは備前物の中でも独特で、刃文の形がそのまま影になったように見えるものである。

中でも古吉井はこれらの特徴に加え、さらに沸がつき、刃中に砂流し・金筋が働くところが見どころであり、さらに帽子が掃き掛けるところもある。

(参考文献)『日本古刀史』『重要刀剣図譜』『日本刀大鑑』

### 古某の所在地および時代区分





木曾路 編

今日の俺の行き先は岐阜県中津川市の刀剣商、お刀処恵那秋水会（おとうところえなすいすい）の松原正勝氏。そこまで自転車で行くのか？ まさか！ クルマに積んで秋水会を訪ね、そこから松原氏がアシストカーを出し、木曾路のヒルクライムを手伝ってくれる。氏から頂いた手紙「銀輪の真さんへ」に氏のこの構想が書かれ、思わず立ち上がった観光ツアー調の半日だ。

氏は海上自衛隊員だった若き日に、広島県呉の駐屯地に勤務。そこで組合黎明期を支えた一人、福永昭二氏の刀剣店の門戸を叩いた。定年後、和歌山県にて「南紀刀剣店」の暖簾を掲げ、現在は旧中山道と国道19号バイパスが重なるここ、氏の故郷に「お刀処恵那秋水会」を開いている。また呉の勤務時代に出会った千原義夫・小山勇という二人の剣人の教える海軍高山流抜刀術に傾倒。氏は今や、この流派の宗家だ。

店内に入ると、まず高い天井に気づく。件の抜刀術の道場も視野に入れていたという店内は商品が綺麗に整理され、刀剣類・刀装具も見やすい配慮となっている。五平餅をさげろつになつたキッチンも独身男子の割には整理が行き届いており、だらしない俺には身につまされる。そして岩村歴史資料館で展示される予定の、氏の絞革の資料も見せていただき嬉しい限り。

一方、俺は木曾路をなめていた。松原氏が設定してくれたコースは馬籠宿陣馬下から馬籠峠の峠の茶屋にて松原正勝さん(右)と筆者



馬籠の峠の茶屋にて松原正勝さん(右)と筆者

籠峠までの標高差二〇〇ほど、還暦過ぎの俺には嬉しいイージョーコース。小雨の中軽々走破で、外国人観光客さんからねざらいの声。ここでアシストカーに乗ればよかったのだが断り、妻籠宿までの下山も自転車を選んだ俺は後悔することになる。

小雨だった雨が次第に強くなり土砂降りに。沢の水が大量に路面にはみ出し、横切っている。多勝男・女瀧の近くではもはや自転車か水泳かかわらない状態に。山の天気は変わりやすい。そして木曾路はすべて山の中である。氏の職場に戻る時、一〇時も離れていないのに路面は乾き、降った様子はない。氏はアシストカーの中でニヤニヤしながら俺に言う。「何か反省すべき生活態度でもあるんじゃないの？ 木曾路の神様はよく見ているよ」と。

はい。その通りです。整理整頓できていません。職場で紛失物が頻繁に出ます。反省です。(編取讓)

■連絡先 0508-0001 岐阜県中津川市中山道上金二四八二 〇五七三三六五 四六八



馬籠峠は街道の最難所

松原正勝

私のふるさは日本の中央部、岐阜県中津川市で、隣の信州まで車で十五分くらいで行けますので、岐阜県人という意識はなく、お客さまが来ると木曾路を案内するのが慣例となっています。当地の自然豊かな山川が喜ばれるのは、誰もが持っている郷愁の琴線に触れるからだと思えます。わが家の前を中山道が通っており、江戸時代から馬籠(馬と馬子)を泊める宿を経営し、戦前まで続けていました。しかし、戦後は車時代になって畜力輸送は幕を閉じ、源平の昔から主動力であった木曾馬の出番はなくなりました。

中山道のうち、江戸方の鷺川宿から馬籠までの十一宿を木曾街道と言ひ、とりわけ険阻な山坂でありましたが、東海道のような川止めがなく、馬籠(孫目)・妻籠(妻子)といった縁起の良い宿場名も好まれていたようです。

木曾路最大の難所は信濃国と美濃国の分水嶺・馬籠峠で、標高は八〇メートル、八・四キロの長距離です。冬の道中は殊の外難儀だったと聞いており、明治末年ごろまでは山賊や熊が出たので、庶民や僧侶までも脇指を差して越えたりです。

令和元年秋、この難関に挑戦した



中山道に面した店舗兼住宅

たのが刀剣界の銀輪スター「あさつてのジョー」こと編取讓一氏。小糠雨降る峠の急坂を愛輪駆って上り下りするも、十月と言えど寒気厳しく、ようやく妻籠宿までたどり着いたが武者震いが出たように、先回りしたわが軽四駆に座乗して事無きを得ました。

日差しの出る上天気ですが、数十分前のあの本曾が嶽の怒りは何だったのか、今も不思議な旅路でした。



「本曾街道六十九次」の馬籠峠(英泉画)

三上貞直前会長が「全日本刀匠会のあゆみ」を講演

九月十二日、岡山大学で開催された日本鉄鋼協会「鉄の技術と歴史」研究フォーラムにおいて、三上貞直刀匠(全日本刀匠会前会長)が「全日本刀匠会のあゆみ」と題し、昭和五十年に設立された同会の前史から今日に至る長い歴史を講演された。

刀匠会結成の動きは、作刀材料の払底という切実な問題に触発されて始まる。自家製鋼研究会が四回にわたって開催されるとともに、新玉鋼などの新材料も模索される。一方で、四十八年に政財界のメンバーによる「新作刀を守る会」が発会、財団法人日本美術刀剣保存協会(当時、本間順治会長)が中心となってたらの復活操業を構想するところとなる。そして、日刀保たたらは五十二年に始まる。刀匠会は日刀保に所属しつつも、自助努力をもって新たな地平を切り開いてきたと言える。「お村正をはじめとした著名な刀剣にも論及している。

復刊が公になるとすぐにSNSで反応があり、刀剣乱舞関連のサイトがツイートして以来、反響は増大。一時は同社のオンラインショップに『広辞苑』に次ぐ最大級の注文が殺到、さらに発売からわずか三日で重版が決定したという。利用者は普段の岩波新書購入層に比べ、圧倒的に女性が多いこともあり、岩波新書編集部も「刀剣乱舞がなかったら復刊はなかったでしょう」とコメントしている。

当時、文部省宗教局保存課に所属し、日本刀の研究では既に第一人者であった著者が鑑査を傾け、平易明快に説いた書。日本刀の歴史・特色・鍛錬・研磨・鑑定・取り扱い・保存まで多岐にわたる解説。国宝・名物、名刀正宗や妖刀

昭和十四年初版発行の岩波新書「本間順治著『日本刀』」が復刊され、話題となっている。本書は今回が第六刷とのことだが、前回の第五刷は昭和十八年の発行で、実に七十六年ぶりの復刊となる。今年六月に刊行開始した『岩波新書クラシックス』の一環で、過去の名著を毎月一冊ずつ限定復刊するもの。第一弾の『戦争と気象』も、昭和十九年の初版以来という。

東美アートフェアで日本刀鑑賞の作法を学ぶ

十月四日から六日まで東京・新橋の東京美術倶楽部において「二〇一九東美アートフェア」が開催された。

東美アートフェアは、東京美術商協同組合(以下、東美)の加盟四八五のうち一〇二の美術商が一堂に会し、自慢の逸品を披露する毎年恒例の展示販売会。古美術・近代美術・現代美術・茶道具・工芸など多彩なジャンルの芸術が身近で見られる機会として多くの来場者を楽しませている。東美の会員は厳しい審査を通過した美術商のみ。つまり、プロ中のプロからお墨付きを受けた美術商のみが集まっていることも、東美アートフェアの価値を表すポイントである。



「はじめての刀剣～本阿彌家が伝える所作体験～」の参加風景



三上刀匠の講演に約100名が耳を傾けた

最近の刀剣文化への関心の高まりを反映してか、予約制の会場は事前申し込みの時点で三十名の枠は満員となった。ほとんどが初めて刀剣を鑑賞する美術愛好家の方々だったが、真剣に鑑賞の作法を学び、自らが刀を扱う姿を記念に撮影してもらうなど楽しんでいった。(飯田慶雄)

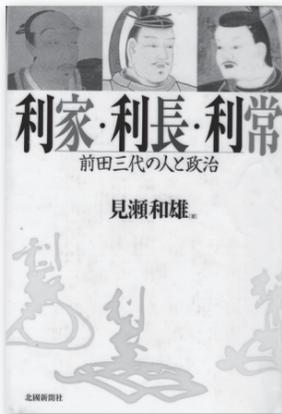
連産業の技術と歴史を探る」をテーマとし、合わせて七本の講演があった。(土子民夫)

ブック・レビュー BOOK REVIEW

百万石を築いた領主三代の実像に迫る

『利家・利長・利常―前田三代の人と政治』

見瀬和雄著 北国新聞社 定価一、九四四円(税込)



「加賀百万石」―何とも絢爛豪華な響き。刀剣や金工を専門とする...

「加賀百万石」―何とも絢爛豪華な響き。刀剣や金工を専門とする...

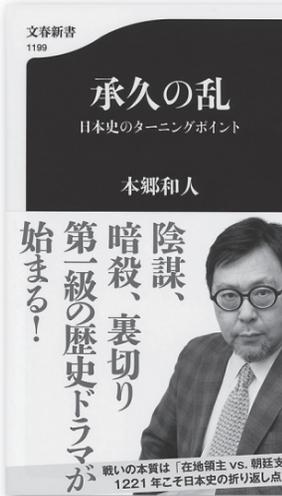
この本は前田家三代、利家・利長・利常の人物、そして業績について述べた書である。利家は「かぶき者」...

見瀬和雄(みせ・かずお) 一九五二年石川県珠洲市生まれ。七七年金沢大学文学部史学科卒業...

後鳥羽上皇vs「北条義時とその仲間たち」

『承久の乱―日本史のターニングポイント』

本郷和人著 文春新書 定価(本体八二〇円+税)



「承久の乱」日本史のターニングポイント。本郷和人著。暗謀、暗殺、裏切り。第級の歴史ドラマが始まる!

前々号に続いて、本郷和人先生の本書です。この本は、著者が鎌倉時代を専門とする研究者であり、承久の乱は資料が少ない中、この時代をきちんとしていないと書けない...

最初に作者が言うのは、鎌倉時代に「幕府」というきちんとした政治システムが確立していたわけではなかったという点です。源頼朝を棟梁と仰ぎ、そこに結果集めることで自分たちの利益、特に土地の保障(安堵)を得る...

後鳥羽上皇は、学問好きの実朝のために、都の一流の知識人を家庭教師にすることを認めます。優れた歌人でもあった実朝...

その時政に従い、血なまぐさい政争に明け暮れながら、最後には父を追いつけた北条義時。血を流しうさばいの最終勝者となった義時こそ、知謀と武力で勝り上がった「鎌倉の王」である...

株城南堂古美術店 代表 田中勝憲. 古銭・切手・刀剣・売買・評価・鑑定. TEL: 03-3711-0051

制論、義時側の主張を「東国国家論」と言うようですが、繰り返すにすぎませんが、本書を読んでいただければと思います。『これでいいのか?』という危機意識は、義時に代表される御家人たちの間に広がっていき、実朝暗殺という衝撃的な形で現実のものとなります。



